

第2回 沿岸部（海岸）における気候変動の影響及び適応の方向性検討委員会
主な指摘事項とその対応

○主な指摘事項

議題と内容	主な指摘事項	指摘事項への対応
(2)指摘事項・課題とその対応	①現状認識を整理しておくことが重要ではないか。たとえば気象庁は海面上昇しているのか不明確としている。そういった現状をしっかりと踏まえて委員会の考え方を整理しておく必要がある。	ご指摘のような現状認識を踏まえて、気候変動の影響に対する基本的認識を検討しました。
(4)海岸分野における影響について	①高潮による浸水面積分布は精度を上げた研究結果があり、最新の論文を確認してほしい。なお、同結果についてはあくまでも傾向を示すものであり、結果の取り扱いには注意する必要がある。	最新の研究成果を反映しました。
	②波高の変化の他に、周期の変化はあるのか。また、冬季の有意な変化はないとあるが、なぜそのような結果になるのか確認してほしい。また、海外で検討している事例はあるか。	周期の変化、冬季の有意な変化がない原因に関する考察は引用元の文献に記載されていませんでしたが、気候変動との関連は明らかでないものの、日本海沿岸において周期が増加している文献を確認しました。 また、同文献においては全球における将来変化の検討もなされており、将来において50年確率波高の増加傾向が明確な海域として、日本南・南東沖、メキシコ西沖等が挙げられています。
	③資料-4の位置づけは、1994年に土木学会でとりまとめた地球温暖化の沿岸影響に記した影響伝播図のような網羅的な影響のうち主なものを取り上げたものであることを示した方がよい。	資料4において、ご指摘の点を明記しました。
	④二枚貝の減少が気候変動による影響なのか不明なのではないか。干潟については埋立などによって減少しているものもあり、気候変動の影響だけではないと思われる。誤解を与えないような論理立てとした方がよい。	ご指摘のとおり、両者の影響を明確に分けることは難しいため、表現を修正しました。

(5)海岸における気候変動の適応の方向性について（素案）	①災害リスクの評価を考慮しないといけないのではないか。現状の施設の評価はどうか。例えば一部低いところや弱いところが有る場合はリスクがあると思われるため、今の施設の実力評価を行う必要がある。余裕高についても考慮した方が良いのではないか。また、砂浜が侵食することにより堤防への影響がある。高さの他に粘り強さや砂浜の侵食の影響等を含めるといった考えもあるのではないか。施設の高さ以外についても着目して適応策を整理してほしい。	施設の高さ以外についても幅広く着目し、取り得る適応策（案）を整理しました。
	②天端高さだけでなく施設の広さや幅などで対応することも考えられ、どこまで書くかはあるものの、なるべく多く記載してほしい。	
	③以前の答申時と基本的な考え方は同じであるが、日本の人口、経済、財政状況が変化し、厳しい中でどのように適応していくか、検討する必要がある。	資料4において、ご指摘の点を反映しました。
	④本委員会では、現場において重要度に応じた適応策を総合的に勘案して選択できるよう、参考情報を含めたとりまとめとしてはどうか。	資料4において、取り得る適応策（案）を幅広く提示するよう、とりまとめました。
	⑤現状で老朽化対策が追いついていない状況の中、適応策を考える必要がある。老朽化対策と併せて適応策を実施出来る箇所は重要度の一つであると考えられるので、組み込んで欲しい。	「海岸保全施設の更新等に合わせた地球温暖化適応策検討マニュアル（案）」（平成23年6月）において、施設の更新等に合わせた適応策の検討手順が整理されており、引き続き、同マニュアル（案）の内容を改善するよう取り組んで参りたい。
	⑥砂浜の優先順位をつけるのは大変であるが、生物生産面、観光面も重要であるため、重要度の要素として考えていく必要があるのではないか。	